

「  
A  
f  
t  
e  
r  
  
y  
o  
u  
,  
  
v  
e  
  
g  
o  
n  
e  
」

作  
..  
田  
中  
雅  
樹

## 「After you've gone」

### 登場人物

- ・ 和弘（大学生、男）ピアノ科の音大生
- ・ 武（中年、男）バーの店主
- ・ 裕子（中年、女）武の妻、朝子（和弘の母）も兼ねる
- ・ 進行係（とくに無し、男）進行係
- ・ 歩（30代、女）ピアニスト
- ・ ダンサー 複数名

### 舞台

現代、地方都市の半地下のジャズバーが主な舞台。

上手が入り口、下手がカウンター、店内にはイスとテーブル、

上手袖は出入り口、下手袖は店の奥（キッチン等）に繋がる。

舞台奥には小さなステージ、キーボードとマイクスタンド、譜面台が置いてある。

M①：「Life is just a bowl of cherries」

オープニング（M1）の後、進行係の口上。

進行係

みなさま、本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。  
私は、先ほど踊っていたダンサー達と共に、今日のこの劇を進行して  
いくものとございます、何卒宜しくお願い致します。

・・・さて、かの有名なシェイクスピアはこう書いています。

シェイクスピアの一節  
朗読

本日の出し物には、貴族も王様も、戦場を脅かす大軍も出てまいりませ  
んし、シェイクスピアが死んでしまっただけからもう450年も経ってし  
まいましたが、私どもは信じております、みなさまの想像力をお借りし  
て、この簡素な舞台で今から始まる物語を楽しんでいただけると！

・・・どうか皆様、私ども若輩者が、教え切れない程の人生の苦楽を経  
験した大人を演じることをどうぞお許しください！

そして、今回の公演に惜しめない協力をしてくださった多くの方々！  
私たちをいつも支えてくれる家族と友人に最大限の感謝を込めて！！

進行係 悩める青年、太田和弘、登場！

舞台前に和弘登場、スマホをいじっている、そのうち留守電を  
聞き始める

案内音声 1件目の伝言、今日、午後1時50分です

女の声 和弘くん？ 今どこにいるの？？ライン既読つかないから……  
手を怪我したって聞いたけど本当？大丈夫？とにかく、返事頂戴。

案内音声 今の伝言を消去しますか？……消去しました……

2件目の伝言、今日、午後2時8分です

男の声 もしもし、和弘？……最近どうしてるかと思つてな……ピア……  
大学とか、どうしてる？……忙しいのは知ってるけど、連絡くれよ……  
あと、裕子さんとおじさんによるしく伝えておいてくれ……じゃあ。  
ああ、あとな、木村さんのことだけど……いや、とにかく、今すぐじ  
やなくていいから、いろいろ話すことがあると思うから、電話でもいい  
から、返事くれよ……じゃあ、よろしくな。

案内音声 消去しました……伝言は以上です

和弘は電話をかける

和弘 もしもし……おじさん、電話くれていたみたいで、出れなくてすみま  
せん……今、新坂上についたところですよ、はい……えっと地下鉄つ  
て……ああ、北口……（あたりを見回して）あ、北口ですか、南口  
でちゃいました……はい……ハハハ……そうですね……

和弘、通話しながら、退場

1場

現在、バーの店内

店主の武が店内の掃除を鼻歌まじりで行っている  
そのうち調子にのって、掃除はそっちのけになる

裕子 (声のみカウンター奥から) ねえ!

武 (裕子の声には気がつかない)

裕子 (声のみ) ねえ!!

武 (声に気がついて掃除を再開する)

裕子登場

武 ん、何?

裕子 和弘くん、今どこらへんか

武 ああ、新坂上だって、さっき電話きたよ

裕子 ああ、そう・・・(床にゴミを見つけて、ひろう)

武 ああ、ごめん

裕子 ・・・お願いね

裕子はカウンターの奥に退場

武 ・・・お、おうよ

裕子がいなくなると、武は一層楽しそうに踊る。  
音楽が聞こえる。

M②:「ON Broadway」

曲が終わっても武は踊り続ける。  
裕子、カウンターの奥から登場し踊り続ける武を見ている  
そのうち、武は裕子に気がつく

武 あ

裕子

・・・まだやるの？

武

あ、いや・・・裕子がやってほしいなら？（上手く笑えない）

裕子

・・・ええ、とつても！

裕子、カウンターの奥にはけていく

武

ゴメンよ（裕子の後を追う）

裕子

（声だけ）やってなさいよ、ホラ！

武

（声だけ）ごめんって！

裕子

（武をカウンターの奥から押し出ししながら）だ〜か〜ら、やってて頂戴

って言ったでしょ！

武

いやだから、ごめんって！

裕子は武を押し出すとまた引つ込む

武がカウンターの方に行こうとすると、裕子は武の顔面に布巾を投げつける

裕子

御免遊ばせ！

武

・・・ええ・・・

武はぽつんと店内に残される。

武

（布巾を拾う）なんだあいつ・・・

武は文句を言いながら手持ち無沙汰そうに店内をブラブラした後、電話をかける

武

・・・もしもし和弘君??まだ乗ってない??大丈夫??・・・ああ、よかった・・・あのさ、ちよつとお願いが有るんだけど・・・うん、何かさ、来る時駅前でケーキ買ってきてくれないかな??・・・そうそう、何でも良いんだけど、女の人が機嫌良くなる様な・・・あ、いや全然、全然普通なだけでさ、こう・・・選ぶ基準としての話さ・・・うん！

じゃあよろしく・・・ハハハ・・・

武は電話を切ると、また手持ち無沙汰になる  
そのうち、「山口さんちのツトムくん」が聞こえる。

M③：「山口さんちのツトム君」

裕子が出てくる。

武 どうしたんだよ

裕子 何が？

武 カリカリしてるよ

裕子 ・・・べつに。

武

♪山口さんちのツトムくん  
(適当に替え歌でも)  
を歌う

武 いつも答えは同じ？

裕子 ・・・今笑ったでしょ

裕子 笑ってません

武 笑ったよ

裕子 笑ってない・・・

電話が鳴る、一瞬気をとられるが、武が裕子に絡んで出ない、  
留守電のアナウンスが流れる。

案内音声 ただいま電話に出ることができません、御用の方はメッセージをど  
うぞ

女の声 いつも大変お世話になっております、クラシモの大塚でございます。

先日御連絡させて頂きました通り、ご注文頂いた商品の代金のお振り込みがまだ確認できておりません。お手数ですが、いつまでにお振り込み頂けるかご一報頂けると幸いです。それでは失礼いたします。

裕子 ちよつと

武 ん？

裕子 一昨日頼んだじゃない

武 え？

裕子 ふり、こ、み！

武 あ、ああ・・・ごめん

裕子 頼んだんだから・・・

裕子はレジの方へ行く

武 あゝ、ごめん

裕子がレジを開ける

武は裕子がレジを開けたことに気がつく

武 あゝ・・・

裕子 (武の声は届いていない) 今日直接持つて行って・・・

裕子はレジをいじって、ふと手を止める

裕子 ……あなた？

武 ……え？ な、何？

裕子 (レジを指差す)

武 ……あゝ・・・(遂に観念して) すまん！

裕子 なにが？

武 勝手に(レジのお金を使った)・・・

裕子 ななに使ったの？  
武 すまん  
裕子 ななに使ったの？  
武 あゝ・・・それは、そのオ・・・

間

裕子 別に、言いたくなければ、いいけど。  
武 あ、いやそういう訳じゃなくて・・・  
裕子 じゃあなに  
武 いやあ・・・  
裕子 ・・・・(武が何も言わないのにむかついて)・・・ねえ、いまメルカリつてのがあるんだって  
武 え？  
裕子 (ステージを指差して)だから、メルカリ  
武 ああ、あれね・・・  
裕子 そう、だから、アレ(ステージ)売っちゃいましょう  
武 え？  
裕子 だから、メルカリで！  
武 あゝ・・・え？なんで？  
裕子 だって、お金必要なんですもの、  
武 え？ ええ？ いやいやいや、メルカリって服とかでしょ？  
裕子 そういうのじゃなくない？  
裕子 何でもOK、ほら、お地藏さんだって売ってる  
武 そんな不敬な！  
優子 通行の邪魔だし  
武 なんて事言うんだ  
優子 今週末、家賃、カード、組合費、市役所から――  
武 貯金を使えば良いだろう  
裕子 気安く貯金とか言わないでくれる？  
武 だからって  
裕子 大体、ウチには分不相応なのよ、こんな

あなたは生に拘ってるけど、聞くお客さんがコレっぽちも居なかったら意味無い！

武 いや、だって・・・これがウチの売りじゃないか

裕子 平日はレコードだし

武 妥協してな・・・コレで週末の演奏まで無くなったらただのバーだ！

裕子 ただのバーで！（いいでしょ）

武 「生演奏が聴けるバー」じゃなきゃこんなところ誰もこないよ！

裕子 そんなことないわよ、皆遅くまでやってる店があんまりないから時々、

気が向いたらごく稀に思い出したように来てるだけで、

武 過剰な演出は控えてくれ

裕子 演歌デーを作れって投書が毎月あるのよ

武 それ和田さんだけだろ

裕子 誰も音楽なんか気にしてないわよ、こんな片田舎で。

武 それ他の人が来てる時に言うなよ、絶対

裕子 これが無くなれば、客席だって増やせるし

武 増やすったって、最後に満席になったのいつだよ、時々稀に来るお客さ

んでさ。

裕子 ・・・・覚えてない

武 俺もだ・・・ハハハ！

裕子 良かった！ お互い記憶がしっかりしていて！！！！

武 お、おい落ち着けよ

裕子 落ち着いてる！

武 とにかく、ダメだ・・・店の看板なんだから・・・。

裕子 （吐き捨てる様に）あんな変な女雇ったりして

### 間

武 その事なんだけどな・・・あゆみちゃんな・・・え？

武 あゆみちゃんだよ、ピアニストの

裕子 知ってる

武 辞めた

裕子 え？  
武 その、なんだ、いろいろと……  
裕子 ……ほら、だから言ったじゃ——（絶句）  
武 天才だと思ったんだけどな  
裕子 いつもいうじゃないそれ  
武 今回は本気だったんだよ  
裕子 本気で何  
武 いや、天才だって  
裕子 ばっかじゃないの  
武 はあ……  
裕子 ……それで？  
武 え？  
裕子 それで？  
武 それで、な、お金  
裕子 え、まさか  
武 いやいやいや、違うよそんなじゃないよ！  
裕子 いや……その……それでな、歩ちゃんに払ったんだよ  
裕子 え？  
武 いやだから、その……お金、レジのお金。  
裕子 歩ちゃんにギヤまとめて渡したから……  
武 ……ああ、そう。そう、そうだった……  
裕子 すまん  
武 なんて謝るのよ  
裕子 だってお前、もうすこし待って貰うって、そうなったじゃないか  
裕子 覚えてたの  
武 だから  
裕子 しょうがないでしょ、辞める人にそんな事言えなかったんでしょ  
武 いや、そうなんだけど。  
裕子 あなたが、そう判断したんだから、いいのよ  
武 すまん

裕子、出口の方に行く

武  
裕子  
（気が付いて）・・・お、おいどこ行くんだ  
取り敢えず、お金下ろしてきますから、貯金から。

しよげる武

裕子、退場。

武はぽつねんと残される。

再び「山口さんちのツトム君」が聞こえる

昨晚、店内、営業終了後の片付けの時間。

武はレジで締め作業をしている  
歩はグラス片手に歌っている

歩

なにか適当に歌を歌っている。  
山口さんちのツトムくんの替え歌とか。

何、その歌（笑）

どう、面白いでしょ

歌手でデビューできるよ

来週デビューするわ

お、いいねえ

この歌、なんか好き、

あるよね、そういう歌

なんか、こう、3チャンネルなのに、報われない感じとか、（笑）

私に似てるなあ、って、この女の子、名前も出てこないし

今は3チャンネルって、通じないらしいよ、ははは、

武さんは、そういう歌ないの？

・ ・ ・ 魔女の宅急便の歌とか？

ユーミン！

今度歌ってあげるよ

そりやどうも、ありがと！

はは ・ ・ ・ （あくび）

武

しばし間

歩

あのね、すごく言い難いんだけどね

武 なに??  
歩 ギヤラ、なんだけど・・・  
武 すまん!もうちよつと・・・もうちよつとまってくれないか  
歩 あゝ・・・うん、そう・・・  
武 きつい? それだったら、俺が立て替えて払うから、  
歩 そんな  
武 いや、いいからいいから・・・

裕子がカウンターの奥から出てくる

裕子 ねえ、これ、置きっ放しだったけど(ちゃんとやったの?)  
武 あゝ、ゴメン、大丈夫、やっといたから  
裕子 本当?・・・ならいいけど。  
歩 歩ちゃん、おつかさま  
武 あ、あのな、歩ちゃんのギヤラのこと何だが・・・  
裕子 あゝゝ! ごめんなさいね歩ちゃん!! もうちよつと待ってもらえ  
歩 る??  
歩 ・・・・はい、大丈夫です  
裕子 本当にごめんね、ありがとう!

裕子退場

武 ・・・・本当に?・・・いや、そんな事ないよね、俺が今払うよ  
歩 ううん、大丈夫、大丈夫だから  
武 いや大丈夫じゃないって  
歩 本当に大丈夫だから、あ、そしたら、その代わりに1杯奢ってよ  
武 えゝ・・・そんな・・・  
歩 大丈夫だから  
武 ・・・・すまん・・・

武は歩に1杯作って出す

武 武さんさあ、最近どう？  
歩 うーん・・・まあ、最近では久々に結構入った方かな  
武 へえ・・・よかったじゃない、おつかれ！  
歩 歩ちゃんのお陰だよ  
武 ありがとう・・・裕子さんとは？  
歩 ええ、まあ、普通だよ、普通  
武 ウツソだよ  
歩 なんて嘘つくのさ！ハハハ！  
武 ・・・・ご無沙汰？  
歩 （むせる）・・・な、何言い出すんだ  
武 別にふつうの事じゃない  
歩 おい・・・  
武 ねえ、上手く行ってないんでしょ？  
歩 ・・・・ハハ・・・なに、もう酔ったの？ 今日飲んでたっけ？  
武 シラフよ。  
歩 じゃあ、酔っぱらう前に辞めにしなよ  
武 やーよ、まだ飲み足りないわ  
歩 ・・・・まったく・・・  
武 武さんも、飲みなさいよ  
歩 俺はまだいいよ、まあでも仕事に付き合いでちよっと飲んでるけど  
武 そう・・・そういえば、武さんって強いのか？  
歩 普通だよ  
武 そう、じゃあ私の強いわ・・・（一気に残りを飲む）  
歩 おいおい・・・無茶するんじゃないぞ・・・  
武 いいわよ下げて。ハイ！（前に差し出す様に）  
歩 はいはい・・・ご協力感謝します

歩 からグラスを受け取ろうと近寄る武、  
受け取るすんでの所で歩がグラスを遠ざけ、武はそれを取ろ  
うとして歩にぶつかる、歩は武によるけかかる

武

おいおい・・・

武 歩  
御免遊ばせ！  
いやあ・・・まあ、悪くは無かったよ

武は歩をイスに座らせる

歩 ねえ、裕子さんと上手く行ってないんでしょ？  
武・・・(頭をガシガシかいて)・・・そう見えるかい？  
歩 ええ  
武 最近、週末になるとああなんだよ  
歩・・・私理由知ってるけど  
武 ええ？  
歩 私よ。  
武 え？・・・ハハハ・・・  
歩 裕子さんが私のこと嫌いだからよ  
武 ちよつと・・・冗談  
歩 本気よ、知らないの？  
武 そんなことないって  
歩 女の臭覚はね、男の人には分からないでしょうけど、敵をいち早く見分けるの  
武 いや、敵って・・・  
歩 私、武さんの事が好きだった  
武・・・(絶句)  
歩 (ちらっと店内の状況を確認する)・・・本気よ？  
武・・・こんなキャラじゃ無いと思ってたんだが  
歩 誰が？  
武 歩ちゃんだよ・・・俺もだけど。  
歩 そう？  
武 そうだよ、こんな・・・ハハ・・・キャラじゃあ無い  
歩 そうかしら  
武 そう、今までの人生が証明してる、ハハハ・・・ハハ・・・

間、気まずい。

歩 武 歩  
・ ・ ・ 安心して、武さん夫婦を壊すつもりはないわ  
・ ・ ・  
もう今は、ね。

(驚く、焦る)

歩 武 歩  
(面白そうに笑う) ・ ・ ・ じゃあ、なんで言ったのかって、

武 歩 武  
それは ・ ・ ・

歩 武 歩  
・ ・ ・ 私ね、もうピアノ辞めるの

武 歩 武  
え？

歩 武 歩  
もう、潮時かなって ・ ・ ・ この店も、ここのピアノも好きだけどね。

武 歩 武  
実家の店の手伝いしながら、婚活でもしようかな ・ ・ ・ なんて

歩 武 歩  
・ ・ ・ 決めた事なんだね

武 歩 武  
ええ、こないだ落ちたときに、自分では。

歩 武 歩  
・ ・ ・ 辞めるって決めたら、なんだか全てが名残惜しく思えてきちゃっ

武 歩 武  
て ・ ・ ・

歩 武 歩  
俺は ・ ・ ・ なにも言えないよ、でも ・ ・ ・ 歩ちゃんのピアノは、凄く好

武 歩 武  
きだ ・ ・ ・ 正直クラシックとか、詳しく分かんないけどさ、

歩 武 歩  
ちっぽけな店のちっぽけなステージだけどさ、そこに歩ちゃんの音楽

武 歩 武  
が流れてたって事、俺の一生の誇りだよ。

歩 武 歩  
・ ・ ・ ありがとう

間

歩 武 歩  
・ ・ ・ 一つだけお願い

武 歩 武  
なに？

歩 武 歩  
・ ・ ・ 抱いて

武 歩 武  
(抱擁する)

歩 武 歩  
違うでしょ

武 歩 武  
歩ちゃん ・ ・ ・ それは ・ ・ ・

歩 武 歩  
お願い、餞別だと思って ・ ・ ・ ね？

武 歩 武  
・ ・ ・ もう来週には居なく成る

武は少し思案して、店内をさっと見渡し、歩を抱擁する

武  
・・・歩ちゃん。

武、抱擁をほどく

武  
今までありがとう・・・

歩  
(何か言おうとする武を遮って) ごめんなさい・・・ありがとう

歩は武から離れ、自分がさっきまで持っていたグラスを  
落とすが、落としてしまう。

歩  
わっ・・・

武  
大丈夫!?

歩  
ごめんなさい・・・

武  
本当に私って要領悪い

歩  
そんな事・・・大丈夫?

武  
あっ!! ちょっと、危ないから触らないで!!!

武は(グラスの片付けの用意に)店の奥に行く

裕子  
(声のみ) 何、また割ったの?

武  
(声のみ) いや違うよ、ちょっと落としちゃっただけ

裕子  
(声のみ) 割れてないでしょうね

武  
(声のみ) 大丈夫だって、アレ?新しい布巾どこ?

裕子  
(声のみ) 自分でしまったんじゃないの、っていうか、ちょっとそれこ  
っち持ってきて・・・

歩は、店の奥から聞こえる一連の夫婦のやり取りを聞いて、打  
ちひしがれる。

音楽が聞こえる

M④ 「Bye Bye Blackbird」

歩は歌い終わり、最後にふとカウンターの方を見ると、さつき  
まで武が弄っていたレジスターが目に入る、  
躊躇する歩に進行係が声をかける

進行係 何してんの？早く取って来なって！

歩 でも、そんな・・・

進行係 別に泥棒じゃ無い、溜ってるギヤラ分貰うだけさ

歩 ・・・・

進行係 じゃあ、どうするのさ、貯金も無いのに

歩 ・・・・おかさんに・・・

進行係 勘当されてるのに？

歩 ・・・・その・・・

進行係 嘘は良く無いより、それに実家の酒屋なんて、

もうとつくの昔に潰れてるじゃないか

歩 ・・・・どこかあるわよ、寝るところくらい

進行係 ヒロキのところは？

歩 ふざけないで、あんなDV野郎

進行係 正直に、行く宛も無いって言えば、お金貰えたかも！

歩 いい加減、怒るわよ・・・！

進行係 (肩をすくめて) 親切で言ってるのに！(退場)

歩 ・・・・

歩は走ってレジの前まで来て、中から札を取りだし、手早く数  
えて、8枚ほどポッケにいれて、急いで荷物をもって店を出て  
行く。

溶暗

3場

1場の終わりの2時間後くらい、店内

武が店内で、うろろうろしている。  
そのうちに、携帯を取り出して電話をかける

武 本当に遅いな・・・和弘くん来ちゃうぞ・・・(電話をかける)

間

武 でないなあ・・・(留守電に)おい、いつ頃帰ってくる??連絡ください・・・(切る)はあ・・・

店内を見回す、レジの方を見ながら

武 まずかったよなあ・・・でもなあ・・・はあ・・・  
世の中きついよ、金、金、金ってか・・・

「チャリーン」と音がする(ドアベルの音)。  
武は飛び上がって、慌てて取り繕った声で、毅然と声をかける

武 お帰り。

和弘が入ってくる

武 あ、ああ、和弘くん!! よく来たね!!!

和弘 おひさしぶりです

武 大丈夫?? 迷わなかった??

和弘 ええ、意外に大丈夫でした

武 だいぶ変わったでしょ、特に駅前なんか・・・

和弘 そうなんですか? 最後に来たのがだいぶ前なんで、記憶が・・・

武 ははは・・・そうかいそうかい、コーヒーでいいかな？  
和弘 あ、はい、ありがとうございます  
後・・・コレ（ケーキ屋の袋を渡す）  
武 あ、ああ！ ありがとうございます！！

武、カウンターへ

武 最近どう？・・・彼女できた？・・・？  
和弘 ははは・・・まあ、残念ながら・・・  
武 あ、そりゃ失礼しちまったな！ ははは・・・  
和弘 ははは・・・皆さん相変わらず元気ですか？  
武 もう元気さ、元気すぎて困ってる！！！！・・・あ、ミルクと砂糖は？  
和弘 大丈夫です  
武 お、ブラックか〜、大人だねえ  
和弘 おいしいコーヒーは、まずブラックって。  
武 おいおい、お世辞までスマートに言える様になっちゃって！！  
和弘 ハハハ・・・  
武 親父さん元気？  
和弘 ああ、まあ元気・・・じゃないかな？  
武 あれ？ 独り暮らしなんだっけ？  
和弘 あ、いやまだ実家です・・・あんまりお互い忙しくって、顔合わせる暇  
無いですよ  
武 そうか・・・大変だね  
和弘 いやあ、それほどでも  
武 家事とかはどうしてんの？  
和弘 最近ほぼ別々っすね  
武 へえ・・・洗濯とかも？  
和弘 ホラ、もともと家が二世帯向けの造りなんで、親父は恋人とよろしくや  
ってるんじゃないですか？  
武 え、そんなに熱々なの  
和弘 知りませんが、、顔会わせないんで  
武 再婚するって言ってたけど

和弘 そうみたいです。よく知りませんが

気まずい間

武 そうなんだ・・・ハハ

武、コーヒーを持ってくる

武 お待たせしました、ドリッブコーヒーでございます

和弘 ありがとうございます。(飲む)・・・おいしい

武 だろ？ 裕子から、コーヒーだけはいつも褒められるんだ

和弘 へえ・・・おばさんに・・・

あ、そうだ、そうだ・・・これ、おばさんからおじさんに渡してくれて頼まりました

和弘は武に手紙(というよりメモ書きに近い)を渡す。

武 え？・・・ああ、ありがとう・・・あいつに会ったのか？

和弘 ええ、丁度駅前で

武 へえ・・・どんな感じだった？

和弘 どんなつて・・・

武 ・・・・その、こう、不機嫌だったとか、怒ってそうだったとか・・・

和弘 いや、なんか凄く上機嫌でしたよ、

武 ええ、本当？

和弘 めっちゃニコニコしてました

武 まじっすか・・・

武、手紙を取り敢えず放置する

武 にしても、いきなり呼んだりして大丈夫だった本当に？

和弘 え？・・・ああ、ぜんっぜん大丈夫ですよ！ まあ、いきなり電話で話された時はちよつとビックリしましたけど

武 ハハハ

和弘 電話でも話したと思うんですけど、僕も丁度気分を変える……とか環境を変えたいって思ってた所なんで、本当に有り難いです

武 ハハハ……どう、大学？ 順調??

和弘 はい、まあまあ順調です

武 そうか、そうかそうか……そいつあ良かった！

和弘 何てったって自慢の甥っ子のだ！

武 いや、はは、そんな……

和弘 まあ、こんなところで良ければいつでもウエルカムだからさ！

武 ありがとうございます

和弘 どう？ 気に入りそう？

武 あ、はい……勿論、それに絶品コーヒー付きですし

和弘 ハハハ……うまいなあ！ あ、コーヒーじゃなくてお世辞がね！

しらせる、一瞬の間

和弘 ……あの、それ、読まなくて良いんですか？

武 ……え？ ……ああ……

手紙を一旦持つが、また置く

武 いや……

和弘 (笑う) あ、すみません……お婆さんが、重要な事が書いてあるから、後回しにしそうだったら、きちんと読む様に言っといてって

武 ……お、おう。

和弘 本当に仲がいいんですね

武 え？

和弘 いや、だって、相手の事分かってるんだなって。

武 ……ホラ、手紙の事です、後回しに、の件。

武 あ、ああ……

武、観念して手紙を手に取り、

読まないで、和弘に差し出す

武 ……。

和弘 え？

武 俺ちよつと、あの、老眼鏡無いと読めないから……

あいつの字汚いし……

和弘に手紙を渡す

和弘 あ、ああ……いいんですか？

武 頼む、後生だ！

和弘 え、いや……全然良いんですけど……

和弘は手紙を読む

和弘 ……おじさん

武 はい

和弘 歩ちゃんって、誰ですか？

武 ……うんだ（小さくて聞き取れない）

和弘 え？

武 違うんだ！！！！

武、手紙をひったくって読む

武 ああ……！

和弘 あ、あの……つまり……

武 なんてこった……！ やっぱり読めない！（老眼鏡が無いので）

和弘 ……えつと、「今夜は帰りません、和弘君も来る事だし、お店の方は  
お任せしてしばらく頭を冷やしたいと思います……

いつの間にかステージに裕子が居る、和弘の手紙を読む声に  
被せて手紙の内容を喋りだす、和弘の声は段々小さく成る

裕子

お任せして、しばらく頭を冷やしたいと思います。  
お互いにとつてもそれが一番だと思います。

各種支払いは私のほうでやっておきます、貯金で！

じゃあ、くれぐれも歩ちゃんによろしく！ 裕子

武  
裕子！！！！

和弘  
ちよつと、おじさん！

武、走って店の外に、和弘、仕方ないので追いかける。

ユーミンが聞こえる。

### M⑤ 「ルージュの伝言」

武  
店で待ってくれ！！ すぐ戻るから！

和弘  
あ、ちよつと、ちよつと待ってくださいよ！

武  
裕子！！

武と和弘が戻ってくる、武は足を引きずっている

武  
すまん、すまん。来て早々

和弘  
いや、大丈夫ですけど

武  
痛い！ まさかこけるとは思わなくて

和弘  
ちよつと、大丈夫ですか？

武  
大丈夫じゃない

和弘  
いきなり駆け出すからいけないですよ

武  
すまん

和弘  
どうします？ 病院とか

武  
いや、この時間に行ったら間に合わないし

和弘  
「日くらい

武  
いや、だめだ、これじゃああいつが居なくなった事でオープンできなく

和弘  
なったみたいじゃないか

武  
いや、そうは言っても

武  
とりあえず上に行って薬つけりや大丈夫だ・・・いてて

和弘 手伝いましょうか？

武 いや、いい！ このくらい一人でできる！

和弘 はあ

武 適当にくつろいでいてくれ！ ほら、キーボードもあるから！！  
ちようどいい、弾いておいてよ！！

武はカウンターの奥に行く

和弘 ……忙しい人だな

気がつくまで進行係がいる

進行係 ……弾くの？

和弘 ……

進行係 やめときなつて、無理だつて！！

和弘 (進行係を睨む)

進行係 なんだよみんな、親切で言ってるのに！

和弘 (無視)

和弘はステージの上のキーボードの前に座る、  
深呼吸、弾こうとするが、なかなか弾かない。  
立ち上がってトイレへ。

進行係 また、トイレですか！

和弘、ピアノに戻ってくる

進行係 あ、やっぱりやんの？

和弘 (和弘は座ったまま、弾かない)

進行係 え、どっち??なに? ……もう……怖いなあ……

音楽が聞こえる

M⑥ 「After You've Gone」

音楽の中で、進行係が囃し立てる  
そのうち、ものすごく判りやすい形で（ダサイ感じで）、  
進行係が和弘役のダンサーを相手に、回想を演じる。

進行係 だから、違うって。

和弘 ・・・す、すいません

進行係 何度も言ってるじゃん、もっとロマンチックにさあ・・・

和弘 はい

進行係 こう、グアァァァってくる感じだよ、分かる？

和弘 はい（もう一度弾こうとする）

進行係 （手で制して）あ、いいよう。今日はコレまで、じゃあ

和弘 ちよ、ちよっと・・・

間

進行係 君・・・こないだの優秀賞の子でしょ？

和弘 （振り返る）・・・は、はい・・・

進行係 なんかさ・・・詰まんない弾き方するねえ

和弘 ・・・

進行係 もっと楽しい感じで弾くでしょ？普通。楽しく無いの？

和弘 は、はい・・・

進行係 いや、はいじゃなくて、純粹な疑問よ、弾いてて楽しくないの???

和弘 ・・・

進行係 はあ？

和弘 ・・・

進行係 いや、期待はずれだなあ・・・

4場

再びジャズバー

武が店内をウロウロしながらブツブツ言っている

武 まだか・・・和弘くん・・・

何だか、いつも待ってばかりだな俺は・・・

ああ、やっぱり俺が直接行けば良かったのに・・・

いや、でも俺が行ったら会わないって言ってたし・・・

扉が開く音がする

武 お帰り！！

和弘 ただいま戻りました

武 あの・・・その・・・いや本当にすまんな

和弘 はは・・・全然構いませんよ

武 ・・・・あ、何か飲む？

和弘 あ、じゃあお水で・・・

武、水をついで和弘のまえに出す

武 それで・・・なんて言ってた？

和弘 あ、はい、それは、え〜〜なんと言いますか・・・

間

和弘 簡単に言いますと・・・「反省しろ」だそうです

武 してるよ！もう！！

和弘 すみません

武 いや、違うんだ、和弘君に言っているんじゃない・・・

間

武 それだけ？

和弘 (一瞬迷って)・・・はい

武 いつ帰るとかは？

和弘 (首を横に振る)

武 ・・・・ああ！(頭を抱える)

和弘 (みかねて)・・・あ、あの、でも大丈夫ですよ、多分！

武 (顔をあげて)・・・いや、あいつが出て行ったのは、実は初めてなん

だ！！いつも喧嘩しても、家出は絶対にしなかった！！！！

・・・もうダメだ！ 多分他に男が居るんだ！！

和弘 (ドキツとなる) え、そうなんですか！？

武 いや、知らないけど！

和弘 な、なんだ・・・そんなことないですよ！

武 そんな事言ったって・・・あいつはなあ、あいつは・・・

ああ！ いつもは、いつもは喧嘩しても暴力で済むのに！

和弘 そうなんですか

武 ああ・・・もうおしまいだ！！

和弘 だ、と、とにかく、大丈夫です！！！！！！

武 ああ！ きつとイケメンだ、若くて背が高い・・・(また頭を抱える)

和弘 (肩をつかんで) 僕を信じてください！！

武 ・・・・(無言で和弘の事を見る)

和弘 大丈夫ですよ！！男なんていません！！

武 ・・・・本当に？

和弘 信じましょう！裕子さんを！！

武 ・・・・

間

武 そ、そうだな、俺はあいつを信じるよ

和弘 とにかく、たぶん、時が解決してくれますよ、

そのうち、そのうち帰って来ますよ多分！

武 ・・・・よっしゃ！(立ち上がる) そうだな。

よし！！！！ 気合い入れて、やっぺこう！

和弘君、ありがとう!!!!!!

和弘 いや、たいした事は

武 ひとつ頼みが有るんだが、いいかい

和弘 えっ、あ、はい

武 俺を、ぶってくれ

和弘 え

武 いいから、いいからやってくれ、

和弘 なんで・・・

武 いいから・・・

和弘、武が喋っている途中に頬を平手打ちする

武 ブツ・・・

和弘 ……(武を見ている)

無言の見つめ合う二人、しばし間

武 よし、うん、いい感じ。 もう一回・・・

和弘 (躊躇なく手を振り上げる)

武 や!!!!ちよっと!!! (ジェスチャーで制止する)

和弘 ……ちよっと待ってね、準備してから・・・よし、来い!!!

和弘 (すぐ平手打ち)

しばし間

武 ……ふう。

和弘 ……

武 いつも、こんな感じなんだ、喧嘩のときは。

和弘 いつも一発殴られて、俺があやまって、終了。

和弘 ……現実逃避じゃないですか

武 いいんだ、取り敢えずコレで、今日は乗り切る!

和弘 明日からまた考えるから・・・ありがとう!!!!!!

和弘  
武  
・・・いつもおじさんが謝ってるんですか  
いつもだいたい俺が悪いからな

よし、準備だ！

和弘  
あ、はい

武  
あ、え〜と和弘くんには何やってもらおうか・・・

和弘  
あ、じゃあ一曲弾いてもらおうかな！ 軽くでいいから

え

武  
あ、いや嫌ならいいんだけど

和弘  
あ、いえ、大丈夫です

和弘はキーボードの前に座る

武  
いやあ、楽しみだな

和弘  
・・・え〜と・・・

武  
あ、本当に何でもいいよ

和弘  
はい

和弘は明らかにテンパってくる

和弘  
え〜・・・・・

和弘は口を押さえてトイレへ

驚く武

しばらくして、和弘が戻ってくる

和弘  
・・・すみません、あの・・・

武  
いや、こつちこそ

和弘  
黙っててすみません

武  
いや、そんなことないよ俺の方こそ・・・

武は水を出す

武 大丈夫？ 落ち着いた？  
和弘 もう、大丈夫です。

武 ……とりあえず、こいつはもう触らなくていいから……  
なんか、なんか布でもかけておこう

武はキーボードになんか布でもかける。

武 なんか、和弘くんが話したかったら聞くけど、もちろん。  
話さなくてもいいよ  
和弘 ……ありがとうございます

武ステージから降りると足がまた痛む

武 あ、いつて！ いていていて

和弘 ちよ、おじさん

武 あ、大丈夫大丈夫大丈夫すぐよくなる大丈夫

和弘 あんまり無理しない方が

武 いや、俺はやる！！……ちよっとキッチンまで連れてって

和弘 大丈夫なんですか……

武、和弘 カウンターの奥へ

おもむろに進行係が登場

進行係……ではここで、ポンコツオーナーが変わって、天才ピアニスト歩ちやんがお送りいたします。「お目を怪我した私」

歩登場、スタンダップコメディ風に。

顔に青痣がある

歩 これ？……ちよっとしたアクシデントでね、事故みたいなもの。

昨日、ここをやめて、退職金を頂戴した後にね、ヒロキに会いに行ったの。

ヒロキって・・・そう、元彼・・・？かな？ まあ、こういう時に私に会ってくれる優しい人なんだけど。

で、まあ人生誰もが大変でしょ？ うん。

一緒にご飯食べて、まあ、あれこれした後にはシャワー浴びてたらヒロキがね、私のカバンから財布を取り出してね、まあ、タイミングの問題よね、私って何時も間が悪いのよね、それで、まあ・・・気がつかなくてね、ヒロキが何してるのか、うっかりそのまま出ちゃったわけよ、バスルームをね。

そう、それがアクシデント。事故みたいなものね。

・・・いや、事故じゃなくって、因果応報ってやつかもね。

だってそうでしょう？ 私だってお店から黙ってお金持って行ったし。だから・・・

・・・まあそれで、できる限り丁寧にご返却をお願いしたんだけど、まあ、それがよくなかったのかもね、逆に気に障ったのかも。

まあそんなわけで私の大事なお金は消えて、その代わりにここを青に染めていただいたって訳・・・手は避けてくれたみたいで、本当にヒロキって優しいのよ！

裕子も登場する

裕子

あったり前じゃない！

勝手にレジからお金を持っていったんだから、犯罪！！

・・・まあ、別に警察呼ぶ訳じゃないけど・・・でもあり得ないでしょ！！？・・・それなのに・・・そう、私にああいう嘘を付いた事が原因なのよ。・・・ねえ分かる??

あんな・・・ホント、男って・・・

あ、ごめんなさいね、熱くなっちゃって・・・

(携帯が鳴る) ちよつと・・・(携帯を見て) 噂をすればよ！

(電話を取る) はい、なんでしようか・・・え？和弘くんが・・・え、何?・・・ピアノ・・・ああ、弾けないんでしょう？ 知ってるわよ！！・・・

え？なんでって、あなたに言ったら絶対変な気を回すじゃない！！……え、最低ね。もう勝手に何もしないでね、そつとしておいて、そう……え？……それは知りません、知りません、失礼します(電話を切る)……ごめんなさいね！……あ、それでね、そう、許せなかったのよ、私に嘘ついて庇ったことが！！なんで隠すのかしら、って思わない？？色々思っちゃうじゃない？歩ちゃんって、結構綺麗な人だし、ね。ああ、でも、絶対何にも無いわよ、あの人そんな度胸無いから！でも、何にも無いとはいえ、……ねえ？

最初は、勿論頭に来たけどソコまでじゃ無かったの……でも、やっぱりドンドン腹が立ってきて……とにかく、ちょっと位反省して貰うわ。とにかくあの人にはガツンと衝撃を与えたいんだから

音楽。

### M ⑦ 「NOW A DAYS」

音楽の合間で武と和弘の芝居

／／ 「武さん、あの、もう7時ですけど」「あ、もうそんな時間か」「いつもこんな感じなんですか？」「え？ うん」「お客様一人も来てないんですけど」「まだ7時だからな」

／／ 「武さん、もう8時ですけど」「うん」

／／ 「武さん」「何？」「なんでもないです」

／／ 「いや、今日は結構忙しいね」「え？」

5場

4場の夜、営業後のジャズバー

武と和弘が店内で飲んでいる

武 本当に辛かったんだな和弘くん・・・話してくれてありがとうな！  
和弘 いえ僕の方こそ、聞いてもらえて、なんだかすっきりしました  
武 いや、そんなこと、俺は・・・あ、ああ・・・  
和弘 いてえ！！！（足をさする）・・・何だコレ・・・凄い痛い・・・  
和弘 ちよ・・・どうしたんですか？？  
武 いやね、なんか急に足にまた激痛が走ったのよ・・・イテテ・・・  
和弘 大丈夫ですか？？ 飲み過ぎなんじゃないんですか？？  
武 いや、いや、そういうんじゃないんだよ。  
和弘 何なんだコレ・・・ポルターガイストかなあ・・・  
和弘 やっぱり骨折してるんじゃない・・・  
武 やめてくれよ！！ 多分アレだ、呪いだ、悪霊の。  
和弘 なんすかソレ・・・病院行った方がいいですよ  
武 ハハ・・・怖い？？  
和弘 いや、僕じゃ有りませんし、僕は足、痛く無いですし。  
武 ごもつともだ。  
和弘 呪われる心当たりでもあるんですか？？  
武 いや、大人に成ってからは特には・・・  
和弘 あ、あいつだ、あいつが悔しがってるんじゃないか？  
和弘 あいつ？  
武 あいつだよ、ホラ・・・裕子が  
和弘 おばさんが？  
武 そう、俺が困ると思つて出て行つたのに、和弘君のお陰で今日の営業を  
無事乗り切れたんだから。  
和弘 いや、いや、そんな言い方辞めた方が良くいっすよ  
武 いいんだよ！ 本当にありがとうな和弘君！  
和弘 君が居なかつたらどうなっていたことやら・・・  
和弘 いやあ・・・あんまり役に立ってませんでしたけど

武 そんなこたあない！ もう、もう大助かりだよ！！  
和弘 まあ、幸いあまりお客さんも来なかったですし  
武 ああ・・・それはな、それはいつもこんな感じだ！！（笑う）  
和弘 笑えません  
武 まあ、さすがに今日は比較的少くはあったが、な。  
和弘 はあ。  
武 でも、和弘君には悪い事しちゃったなあ  
和弘 あ、いや、いいんですよ、全く動かさないつても、手に悪いみたいな  
武 ンで。  
武 ははははは（笑う）そうか、そうか！！  
和弘 あ、いつまでなんだっけ？和弘君、来月の半ばだっけ？  
武 はい・・・まあ、ぼちぼち、11位にこっち出発しようと思ってます  
和弘 バス？ 電車？  
武 今のところは、バスかなって。  
和弘 そうか、もう予約してあるの？  
武 あ、いや、まだです  
和弘 そうか、寂しくなるなあ・・・  
武 何言ってるんすか、まだ来たばかりなのに  
和弘 あ、そうだった！ はははは！！・・・おっと（バランスを崩す）  
武 うおっ！ だ、大丈夫ですか？  
和弘 失礼失礼、大丈夫だよ！  
武 そろそろ寝た方が・・・  
和弘 もうちよつといける！  
武 あ、和弘君は眠かったら好きに引き上げてくれ！ 遠慮しないで！  
和弘 あ、いや僕もまだ大丈夫です

間

武 にしても、本当にありがとうな和弘君！  
和弘 君が居なかったらどうなっていたことやら・・・  
武 え？  
和弘 裕子なんか居なくても、和弘君が居ればいい！

和弘 酔ってるんですか？

武 よってない！

和弘 モロ酔ってるじゃないすか・・・

武 いつ帰るんだっけ？

和弘 あゝ、来月の11です

武 そうかゝゝゝ！！

和弘 もうダメじゃないですか・・・

武 さあ、武さん寝ましょう！！

武 いや！ まだ大丈夫！！

和弘 全然大丈夫じゃあないですよ

武 んゝゝゝ

和弘、武を介抱しながらカウンター奥へ連れて行く

和弘 ちよ、あんまり動かないでください

武 うごいてないよ

和弘 階段上れますか？

武 大丈夫！！ うん！ もう大丈夫、後は1人で行くから

和弘 大丈夫ですか？

武 大丈夫だって

しばらくして扉を開ける音

和弘がカウンター奥から出てくる

和弘 はあ・・・

首や肩をストレッチしながら席に戻り、武のグラスやテーブルの上のものを片付け始める。

ある程度のところではイスに座り、1人で飲み直そうとするが、カウンター奥から武が出てくる、手に楽譜を持っている

武 和弘くん！

和弘 うおっ！ おじさん！  
武 ハハハ・・・シヨウ・タイムだ！  
和弘 え？

武、キーボードに座り楽譜を弾こうとするが、酔っているせいで酷いものである

武 ダメだ、これ壊れてるよ！（よろける）  
和弘 ちよ・・・ちよつと大丈夫ですか？？

和弘、武をイスに座らせる、譜面を受け取り

和弘 どうしたんですか、一体  
武 いや・・・ちよつとサプライズしようと思ってな・・・だがどうにも飲み過ぎたみたいだ・・・  
和弘 大丈夫ですか？  
武 いや、すまん・・・良い曲なんだがなあ・・・  
和弘 ちよつと、いいですか・・・

和弘、ピアノに行って譜面を見る

武 わかる？ 何の曲か  
和弘 ・ ・ ・

和弘、ピアノに座り、弾く体制に入る

武 和弘君？ちよつと大丈夫なの？  
和弘 ・ ・ ・なんか、なんか大丈夫な気がするんです。  
武 いや・・・

武は和弘の近くに行く



武 トイレ行ってくる  
和弘 はい

武、トイレへ

和弘 ……ふう

和弘は楽譜を見ている、  
しばし間

和弘 ……おじさーん？

返事はない

和弘 おじさーん  
……ちよつとおじさん！！

和弘はトイレから武を引きずり出してくる

和弘 こんなところで寝たらダメですよ！

武 大丈夫！ 眠くないから！

和弘 はいはい

武 聞いているのか

和弘 聞いてます

武 あ、いつたい、痛い足が痛い

和弘 ほら、もうダメじゃないですか

和弘、再び武を介抱しながらカウンター奥に退場、  
ピアノの音が聞こえる、ゆっくり暗くなる

## 回想

## M⑧ [After You've Gone]

また、進行係が和弘役のダンサーを相手に、寸劇をしている。寸劇の途中から、和弘が現れる、滅茶苦茶恥ずかしいのでやめさせようとするが、そのうち寸劇に飲まれて行く。

進行係 (拍手) 本当にうまくなったわね

和弘 かあさん!

進行係 母さん、この曲大好きなのよ

和弘 しってるよ、裕子さんから聞いたもん

進行係 それで練習してくれたの? ありがとう、和弘は優しいのね

和弘 そ、そんなことないよ、僕もこの曲が好きだし

進行係 あら、良かったわ、母さん嬉しい!

和弘 (照れ笑い)・・・あのね、母さん。

進行係 なあに?

和弘 来週の授業参観・・・来れる事になった? 僕、授業で伴奏やるんだ。

進行係 ・・・・ごめんなさいね、やっぱりお母さん行けないわ、ごめんね。

和弘 ううん!大丈夫!! お仕事大変だもんね、がんばって!

進行係 ・・・・ありがとう、今度の合唱祭は必ず見に行くからね。

和弘 本当!?

進行係 本当よ! 指切りしましょう

和弘と朝子、指切りげんまんする

和弘 ・・・・今日も仕事?

進行係 ごめんなさいね。

和弘 ううん、大丈夫だよ、お仕事頑張ってる

朝子退場、

突然電話のベルが鳴る

和弘は電話を取る

和弘　もしもし！・・・お父さん！　どうしたのいきなり・・・え？

お母さん？・・・まだ帰ってきてないけど・・・うん、そう、いつもは7時くらいには帰ってくるけど・・・うん（ここで電話は切れてしまう）・・・

（電話機を耳から外して）変なの・・・

ダンサーが親戚に扮して登場

親戚　過労ですって

親戚　若いのに

親戚　そんなにお金が必要だったのかしら

親戚　見かけによらないわよ、パチンコとか・・・

ダンサーは親戚から大学生になる

大学生　あ、和弘くんだ！

大学生　和弘くんだよな？こないだの優秀賞の

先生　あのコンクールの演奏！いやあ、すばらしかったよ！

先生　頼んだぞ！！　ハハハハハ！

和弘　やめてくれ！！

女装した進行係。

服は乱れている。

進行係　和弘・・・は、早かったのね・・・

7場

5場の続き、

和弘は椅子で寝ている

裕子がカウンターの奥からコソコソでてくる

和弘

うわ！！（ビクンってなって起きる）・・・

あわわわわ・・・（進行系の気色の悪さに驚いている）

・・・あ、（裕子に気が付く）え？

・・・ちよつと、忘れ物

和弘

はあ・・・

裕子はカウンターの方へ行く

裕子

何か飲む？

和弘

はい

裕子

お水でいい？

和弘

ありがとうございます

裕子、3人分のグラスを持って和弘の近くに置く。

その後で入り口の方へ行く。

裕子

いいから、来なさい

歩がおずおずと入ってくる。

裕子

はい、ここ座って。

歩

（頷く、座る）

裕子

はい、お水。

歩

（会釈）

しばし間

和弘 (裕子に視線を送る)  
裕子 ……えっと、こちらね……步ちゃん  
和弘 步さん  
步 步です、どうも。  
裕子 ほら、言っただけでなかった？ ピアニストの步ちゃん  
和弘 (むせる)  
裕子 ちよっと、大丈夫？  
和弘 いや僕は大丈夫なんですけど  
裕子 ちよっとそこで会ってね、無理やり連れてきたのよ  
步 ……  
和弘 はあ

しばし間

和弘 あの、大丈夫なんですか？ (歩の青痣について)  
歩 ああ、うん、何てこと無いんだけど、  
和弘 そうなんですか  
歩 まあ、ただ、少し……あ…… (涙を堪えて上を向く)  
和弘 あ  
裕子 和弘くん、布巾かなんか  
和弘 あ、ああはい

和弘、カウンターのの中へ入って布巾を持ってくる

歩 すみません  
裕子 こすっちゃダメよ！  
和弘 あ、あの…… (布巾を持ってたじろぐ)  
裕子 ありがとう (和弘から布巾を受け取って歩に握らせる)  
歩 あ……  
裕子 和弘くん  
和弘 あ、はい  
裕子 どうしたのモジモジして、トイレ？

和弘 え？

裕子 トイレ？

和弘 え、あ、はい、

裕子 行ってきていいわよ

和弘 はい、トイレ行きたいです。

和弘、トイレの方へ

和弘 トイレ、行ってきます。

裕子 ちゃんと手、洗ってね

和弘 はい！

和弘退場

裕子 ・ ・ ・ 落ち着いた？

歩 はい

裕子 はい、お水

歩 ありがとうございます

しばし間

歩 あの

裕子 何？

歩 すみませんでした

裕子 何が？ ・ ・ ・ 私の買ったばっかのヒールにゲロ引っ掛けたこと？

歩 ・ ・ ・

裕子 いいわよ、セール品だし。

歩 ・ ・ ・

裕子 私も何でだか解らないわ。最初は猛烈に許せないって思ったけど。

歩 ・ ・ ・

裕子 だから初めて家出みたいな真似もしたんだけど

歩 家出？

裕子 そう、家出。

まあでも不思議なもんよ、営業時間に外で気ままに過ごしているのって、なんか学校サボってるみたいでね・・・でもすぐ飽きちゃって適当にブラブラしてたのよ。

で、気がついたのよね、色々、言葉じゃ言えないけどね、なんかこう・・・まあ・・・で、もういいかなって思ってたなら、駅前にベロンベロンに酔っ払った女の子がいて。

・・・すみません

裕子 そうね

歩

でも歩ちゃんの顔見ても、別に特別何かこみ上げてくる訳でもなかったし・・・あ、痛そうだとは思ったけど・・・まあ、不思議なもんね。

二人静かに笑う

歩 ・・・・私は、同じ事されたら、こんなにアツサリ許せないと思います

裕子 そう？ でもそんなもんよ

歩 そうなんですか？

・・・・どうするの？これから

歩

しばし間

裕子 すぐには決まらないわよねえ

歩 はい、でも、男は辞めます。

裕子 そうね（笑）

歩 ちよつと謹慎して、もう少しちゃんとした人間を見つけます、同い年くらい（笑）

裕子 ハハ・・・

間

歩 (立ち上がった) ありがとうございます  
裕子 あら、もういいの？  
歩 はい、大丈夫です  
裕子 そう・・・(カバンから財布を取り出してお金を歩に握らせる)  
歩 そんな、大丈夫です  
裕子 いいの、いいから！  
歩 ・・・・ありがとうございます

歩、退場

和弘出てくる

裕子 ちゃんと手洗った？  
和弘 洗いました  
裕子 そう  
和弘 あの  
裕子 何？  
和弘 なんか・・・言い難いんですけど・・・その、いいんですか？  
裕子 ・・・・知らない！  
和弘 ・・・・  
裕子 どこから聞いてたの？  
和弘 ほぼ全部聞いてました、手だけ洗って、すいません。  
裕子 じゃあ、その通り。もう自分でもよく分からない  
和弘 はあ・・・  
裕子 人生の先輩っぽい演技も、もう限界！(どっかり座りこむ)  
は～～、疲れた・・・なんでこんな事してんのかしら・・・

しばし間

和弘 でも、良かったです  
裕子 何が？  
和弘 裕子さんが、帰ってきてくれて  
裕子 よくないわよ

和弘 え  
裕子 言ったでしょ、忘れ物したって。  
もう一仕事あるから来ただけ……

裕子はカウンターの中をあさる

裕子 ないわね……和弘くん  
和弘 はい  
裕子 タバコ吸ってる？  
和弘 え、いや、しません  
裕子 そう……ああ、あったあった……よしよし……

裕子は封筒を探し出して、戻ってくる

裕子 ……どんな夢、見たの？  
和弘 え？……あ……  
裕子 朝子の夢？  
和弘 ……はい（疑問が残る肯定）  
裕子 そう  
和弘 最近はどうほとんど見て無かったんですけど……  
裕子 そうなんだ  
和弘 裕子さんに会ったから、思い出したのかも……いや、違うか。  
裕子 アハハハ……まあ、似てるからね、いや、昔は似てたからね、遺影の  
和弘 あの子と。  
裕子 ハハ……  
裕子 本当よ！……もう7年になるのね  
和弘 そうっすね  
裕子 ……どんな夢だったの？  
和弘 え？  
裕子 忘れちゃった？  
和弘 あ、いや……  
裕子 あ、言いたく無かったら良いんだけど。

和弘 いや、そういう訳じゃ……小さい時の夢で……あの、ほら（口で歌ってみせる）さつき武さんが裕子さんが一番好きな曲だって言うてたんですけど……

裕子 そうそう、あんたにこの曲教えたの私でしょ？

和弘 はい（笑い）……その、小さい時に裕子さんから聞いて、それで母さんに聞かせてあげようと……

裕子 ああ……その話、聞いた事あるわ  
和弘 え？

裕子 朝子がね、嬉しそうに電話してきたのよ、息子自慢だって

和弘 ええ……なんか恥ずかしい

裕子 アハハ……

### しばし間

裕子 和弘君さ、最近どう？

和弘 どうって……

裕子 ほら、ピアノとか、学校とか

和弘 昼にも聞きませんでした？

裕子 うん、聞いた、まあまあだつて

和弘 はい、まあまあです

裕子 ……ハハハ……

和弘 ……

### しばし間

裕子 ……お父さん、嫌い？

和弘 親父。

裕子 複雑なのはわかるけどね、再婚とかって。

和弘 ……

裕子 でも、もう大人なんだし、ちゃんとコミュニケーションとらなくちゃ  
とにかく、心配してるから、バレてるから。

和弘 ……はい

裕子 まあでも、まだ子供だけど  
和弘 どっちですか

しばし間

裕子 ……そんなに辛いなら、辞めちゃいなさいよ。

和弘 ……え？

裕子 何も、そんな苦しみ抜いてまでピアノに拘る必要ってあるの？

和弘 それは……

裕子 若いんだから、これから可能性なんてイッパイあるわ

和弘 ……それは……でも音大まで行かせてもらったし……

裕子 人のことはいいいから、自分はどうかなの？

和弘 俺は……

裕子 朝子だって、お父さんだって、君が苦しみ抜いて……そして、もつと

和弘 後で……惨めにリタイヤする事は全く望んじやいないわ。

裕子 ……

和弘 それでも良いっていうの？

和弘 ……

裕子 まだ二十歳でしょう？

他にやりたい仕事なんてイッパイ見つかるわよ！！

間

裕子 (辞めるのが)嫌なの？

和弘 ……(首をたてに振る)

裕子 ……そう

和弘 やっぱり俺、好きなんで

裕子 そうなの

和弘 ……はい……

裕子 そう、じゃあ頑張らないとね。

和弘 ……これ(かばんから封筒をとりだす)

和弘 え？……そんな！！いいですよ！！

裕子 いいから・・・お金じゃないわよ！  
和弘 え・・・ああ・・・  
裕子 悪かったね、貧乏でさ。  
和弘 とんでもございませぬ！  
裕子 2度目の手術の後、一度こっちに遊びにきた事があったでしょ？  
和弘 ・・・・そのときに。  
(封筒ひらく)・・・これ・・・

中には楽譜のプリントがはいっている

裕子 楽譜？  
和弘 ・・・・  
裕子 どんな曲なの？  
和弘 あ、あれですよ

キーボードから楽譜を持ってくる

裕子 なんで同じのがあんのよ  
和弘 さっきおじさんが、弾いてくれようとしたんですけど  
裕子 ・・・・酷かったでしょ  
和弘 ハハ・・・  
裕子 折角の感動的なシーンになる予定だったのに、フライングしたせいで  
台無しじゃない！  
和弘 そんなことないですよ  
裕子 ・・・・(キーボードを示して)できるわよ、絶対。  
あんた朝子の息子なんだから。それに、小さい時出来たんだから簡単な  
曲なんでしょ？  
和弘 アハハ・・・

和弘、キーボードの前に座り、ゆっくり弾き始める

演奏終わる

裕子 (拍手)

和弘 ……

裕子 泣なかいの？山場だよ

和弘 ……すいません(泣かない)

裕子 よし、いい子いい子してあげる

和弘 いや、いっすよ

裕子 大丈夫、誰も見てないから、そんで泣きなさいな、

和弘 そういう問題じゃなくて

裕子 はい、いい子いい子〜

和弘 ……いや〜な感じ。

裕子 あ、裏に、何か書いてあるわよ

和弘 え？

楽譜をめくる

和弘 ……(読む)

裕子 ……(読む和弘を見ている)

和弘 どうぞ

裕子 あ、いいの？

裕子、楽譜の裏の手紙を読む

裕子 ……へえ、しゃれた事するじゃない、そんなに嬉しかったの

和弘 はは…

武がカウンターの奥から出てくる

武 ……裕子！

裕子 ……それじゃ、和弘くん頑張っつてね。

失礼いたしました。

武 え、いやいやいやいや

出て行こうとする裕子を引き止める武

裕子 ちよつと、やめてください  
武 あ、はい。

もじもじする武

ため息をついて出て行こうとする裕子を武は思い切って抱きしめる

和弘の存在を思い出して、引き離す裕子

裕子 わかった、わかったから

武 (笑顔)

裕子 でも・・・(ひっぱたく)

武 すみませんでした

笑顔でまた迫る武に、裕子は和弘を指し示す

武 や、やあ・・・和弘くん、さつきはごめんな

裕子 なにしたのよ

和弘 い、いえ全然

武 ちよつと飲み過ぎてな

裕子 なにしてんのよ、良い年して

武 だからちよつとだって

裕子 (無言)

武 ……この通りだ

武 ……んゝ(のびをする) もう4時か・・・コーヒー飲む人ゝゝ?

裕子 気が利くじゃん

和弘 はい!

武 少々お待ちゝ(カウンターの奥に去る)

和弘 手伝います

みんなカウンターの奥へ退場。

すると進行係が出てきて、ピアノを弾き始める  
進行係のピアノに光を残して暗くなる  
進行係の演奏終わりで溶暗

暗い中和弘の声が聞こえる

和弘

・・・留守か・・・

えっと、親父？朝早くにゴメン。和弘だけど・・・

あ、大した用じゃないから掛け直さなくていいよ。

なんていうか・・・その・・・ごめん、そんで・・・ありがとう（消え入り  
りそうな声で）・・・

あ！！！自殺とか、そういうんじゃないから心配しないで！！

・・・ただ、なんつか・・・きの「ピー（電子音）」

〔終わり〕